



円相場、144円台前半に伸び悩み 実需の売り観測で

28日午前の東京外国為替市場で、円相場は伸び悩んでいる。10時時点は1ドル=144円09～10銭と前日17時時点と比べて89銭の円高・ドル安だった。米連邦準備理事会（FRB）の利下げ開始を意識した円買い・ドル売りが続いているものの、輸入企業など国内実需筋による円売り・ドル買い観測が相場の上値を抑えている。

円相場は10時前に一時144円25銭近辺まで上げ幅を縮めた。10時前の中値決済に向けて「ドル買い需要は強かった」（国内銀行の為替担当者）との声が聞かれた。28日はスポット（直物）取引で資金を8月中に受け渡しできる末日にあたり、国内輸入企業などの円売り・ドル買いが膨らんだもようだ。

円は対ユーロでも上げ幅を縮めている。10時時点では1ユーロ=161円09～12銭と、同76銭の円高・ユーロ安だった。ユーロは対ドルで小動きで、10時時点では1ユーロ=1.1179～80ドルと同0.0016ドルのユーロ高・ドル安だった。



原油、反落 利益確定の売り

28日朝方の国内商品先物市場で原油は4営業日ぶりに反落し、中心限月の2025年1月物は1キロリットル6万7250円と前日の清算値に比べ1580円安い水準で取引を始めた。27日のニューヨーク原油先物相場が利益確定の売りで下落した流れが波及した。このところ中東情勢の悪化懸念を受けた上昇が続いていたため、利益確定や持ち高調整を目的とした売りが出やすかった。

金はきょうから中心限月となった25年8月物が1グラム1万1726円で午前の取引を始めた。足元では小幅に水準を切り上げているが上値は重い。27日に米長期金利が上昇し、金利のつかない金先物の投資妙味が薄まるとの見方が相場の重荷になっている。

白金もきょうから中心限月が25年8月物となり、1グラム4450円で取引を始めた。その後は小高い水準で小動きしている。



老朽化進む道路橋、17%が修繕未着手 人手や財源不足

国土交通省は26日、老朽化が進む道路施設の点検結果を公表した。自治体が管理し、2014～18年度の点検で5年以内の修繕、撤去が必要と判定された道路橋約6万カ所のうち、17%の約1万カ所は期限となる23年度末時点で対策が未着手だった。

12年に山梨県の中央自動車道笹子トンネルで天井板崩落事故が起き、道路施設の点検は定着したが、人手不足や財政難で修繕が追い付いていない。国交省は財政支援などで早期対策を促す。

道路橋は車両を通すために川や谷などに架けられており、鉄道用などと区別される。修繕、撤去が必要な6万482カ所のうち、66%に当たる3万9688カ所は対策済み。17%は作業中で、残る17%、1万353カ所は手つかずだった。

市区町村管理の4万668カ所に限ると、未着手が22%と遅れが目立った。

自治体管理のトンネルは3131カ所が修繕、撤去が必要と判定され、対策済み82%、作業中13%で、未着手は5%、167カ所。このうち151カ所は市区町村の管理分だった。

自治体別の状況は来月にも公表する。国交省と高速道路会社が管理する道路橋とトンネルは、いずれも未着手がゼロだった。

笹子トンネル事故を受け、道路施設は5年に1度の点検が義務化された。対象は道路橋約72万カ所、トンネル約1万1千カ所、歩道橋など付属物約4万1千カ所に及ぶ。

各管理者は5年かけて全施設を点検するルールで、14～18年度が1巡目、19～23年度が2巡目。点検した施設の割合は100%に近い。24年度からは3巡目に入っている。

道路などの社会インフラは高度経済成長期に集中的に整備され、これから老朽化が急速に進む。国交省によると、建設から50年以上が経過する道路橋の割合は、18年度末の27%から23年度末には39%まで伸びた。33年度末には63%に達する見込みだ。



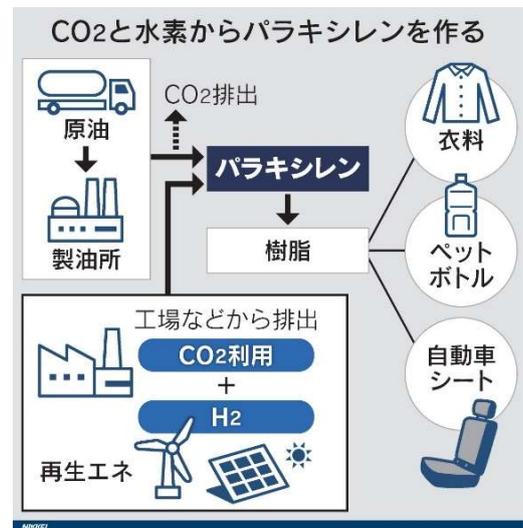
千代田化工、CO2から樹脂原料 原油使わず衣料などに

千代田化工建設は衣料や自動車部品になる樹脂原料の製造工程で、二酸化炭素（CO2）を利用する方法を実用化する。一般的な原油由来は製造時にCO2を排出するが、逆にCO2を利用することで排出量を減らせる。ファッションや自動車業界の上流を含めた供給網全体でのCO2削減につながる。

ポリエステル繊維やペットボトル用樹脂はテレフタル酸から作る。テレフタル酸はパラキシレンを酸化することでできる。パラキシレンは原油から作るのが一般的で、製造時にCO2を排出する。

金属触媒とゼオライト触媒を混合させた物質を用い、CO2と水素を反応させることでパラキシレンを製造する。千代田化工が富山大などと研究を進めてきた。2026年にも大規模実証設備の建設を始め、30年代に商用プラントの運用につなげる。CO2由来のパラキシレンを世界で初めて実用化することを目指す。

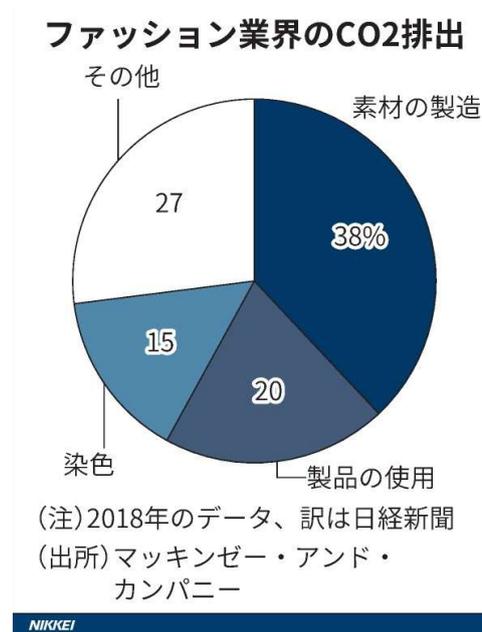
1万トンのパラキシレンを製造する際に少なくとも約3万トンのCO2を吸収する。石油由来の場合は1万トン弱のCO2を排出するので、合わせて約4万トンの削減につながる。



10万着の衣料には6トン程度のパラキシレンが必要とされる。年100~1000トン程度の実証設備で実用化へのノウハウを蓄積しつつ、三菱商事と連携して実際に衣料やペットボトル、自動車シート向けに試験販売する。

30年代には化学メーカーや石油会社に年1万~10万トンを製造できるプラントとして納入する計画で、受注額は数百億円規模を想定する。パラキシレンの価格は原油から製造する場合と比べ、数倍となる見通し。CO2を効率的に触媒に入れるタイミングなどの研究を進めて低コストの量産技術の開発も進める。

米コンサルティング大手のマッキンゼー・アンド・カンパニーによると、全世界でファッション業界から排出されるCO2は約21億トン（2018年）と世界全体の4%を占める。原料生産のほか、染色や紡績などで大量のCO2を排出するほか、廃棄量も多く、環境負荷は鉄鋼などと並び大きな業界だ。



なかでも排出量のうち4割弱を占める素材づくりで排出を減らし、逆にCO2を利用する仕組みは供給網全体での排出削減につながる。コストがある程度高くなっても、需要があると見込む。

パラキシレンは使用済み食用油などバイオマス由来のものも開発が進んでいる。バイオマス由来のパラキシレンを使った衣料は、「ザ・ノース・フェイス」などを展開するゴールドウインが作るスポーツライミング日本代表のチームウェアに採用されている。



石油業界 設備投資 2024年度46%増 2451億円 次世代エネ向け活発に

DBJ調査

日本政策投資銀行（DBJ）がまとめた2024年度の国内設備投資計画調査によると、石油元売を中心に、石油業界

石油業界 設備投資

の設備投資額は前年度実績にくらべて46・0%増の2

451億円と大幅に増加した。

前年度は製油所の維持更新投資減少や新型コロナウイルス禍明けの大型投資の反動で大幅減少。それに対し2

024年度は、再生可能エネルギーやSAF（持続可能な航空燃料）をはじめとした次世代エネルギー事業への積極的な投資が活発化し大幅に増える。

高付加価値化20・8%などとなった。調査は石油、化学、自動車、鉄鋼など資本金10億円以上の大企業2872社を対象に6月に実施。それをもと

2024年度46%増 2451億円 次世代エネ向け活発に

設備投資先の対象を尋ねた質問項目（複数回答）では、維持・補修が35・3%で最も高かった。次いで環境対策22・4%、新製品・サービスの品質向上・

に産業別に国内設備投資動向をまとめた。DBJは石油業界の足元の動向と長期展望を考察。足元では石油需要減少に備えて子会社や特別目的会社（S

PC）を通じた新エネルギー関連の設備投資増加、製油所閉鎖・ライン停止を踏まえた生産体制再編、製油所跡地の新燃料製造拠点への転換を進めていると

分析する。長期に向けては、2030年に国内燃料油需要が20

22年比約2割減少の見通しを踏まえ、需要減を最大リスクとしてあげる。その対応として次世代エネルギーの事業化を加速させるとみる。



週間原油コストの推移

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート (▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	7/16～7/22	84.77	▲ 1.24	158.58	▲ 3.26	84.55	▲ 3.00
	7/23～7/29	81.92	▲ 2.85	155.77	▲ 2.81	80.26	▲ 4.29
	7/30～8/5	79.54	▲ 2.38	151.23	▲ 4.54	75.65	▲ 4.61
	8/6～8/12	77.78	▲ 1.76	147.47	▲ 3.76	72.14	▲ 3.51
	8/13～8/19	80.47	2.69	148.78	1.31	75.30	3.16
	8/20～8/26	77.59	▲ 2.88	146.46	▲ 2.32	71.47	▲ 3.83
水曜日～ 火曜日	7/17～7/23	84.49	▲ 1.37	158.24	▲ 2.97	84.09	▲ 2.96
	7/24～7/30	81.52	▲ 2.97	155.24	▲ 3.00	79.59	▲ 4.50
	7/31～8/6	79.18	▲ 2.34	149.41	▲ 5.83	74.40	▲ 5.19
	8/7～8/13	78.51	▲ 0.67	148.06	▲ 1.35	73.11	▲ 1.29
	8/14～8/20	79.92	1.41	148.60	0.54	74.69	1.58
	8/21～8/27	78.04	▲ 1.88	146.14	▲ 2.46	71.73	▲ 2.96

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSLレート